

第2室

環濠集落の内部でおこなわれていた「ものづくり」の技術を知ることができます。土器・石器・木器・青銅器・機織りなどの製作過程と道具類、製品を展示します。

第2室の壁面には、大型3面スクリーンに唐古・鍵ムラのある日の出来事と弥生の環境イメージが映し出されます。



蓋付四脚容器



木を削る道具

石庖丁の製作工程



鑄造実験の鑄型と鑄放しの銅鐸



楼閣の描かれた土器

唐古・鍵の弥生世界

第1室

唐古・鍵遺跡を取り巻く環境と食体系（生業）、交流と戦い、死、そして、神へのいのりを表す数々の遺物を展示します。特に絵画土器を参考に製作したシャーマンの模型やまつりの場面を再現した模型によって、弥生時代のマツリをイメージできます。また、エントランスの床下には、発掘調査で検出された大型建物跡の柱穴を埋め込み、建物の大きさが実感できます。



ヒスイ勾玉と褐鉄鉢容器



盾と戈を持つ戦士

女性シャーマンの模型



田原本のあゆみ

第3室

田原本1万年の歩みを考古遺物を通してみるすることができます。特に埴輪には優品が多く、重要文化財に指定されている「牛形埴輪」を始めとして馬・盾持ち人・家形などの埴輪が並びます。また、重要無形文化財保持者である吉田文之氏の作品「撥鏝」（象牙に染色し撥ね彫りしたもの）も展示します。



重文 牛形埴輪



ばちる 撥鏝



民間信仰のお供えもの

